クローバーだより

2021 年 11 月１２日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
林　知子

地頭(じあたま)をよくする最も効果的な事はなに？

わが子の人生が幸せであってほしい。だからわが子には賢く健やかに育ってほしい。親なら誰でもそう望むでしょう。今の世の中、早期教育が当たり前になり、子どもたちは日々習い事に忙しくしています。

「けれども、お子さんを賢い子に育てたいなら、幼少期は、何はともあれ遊ばせることです。」

そう話すのは、中学受験のプロとして 5000 件以上の家庭を個別指導してきた小川大介先生です。受験のプロであれば、“勉強第一”と言いそうですが、意外な言葉をおっしゃっています。
今回は、小川先生がお話ししている「幼児期の子どもの遊び」についてご紹介します。

★中学受験の現場で感じた「伸びる子」「伸びない子」★

未就学児・低学年のうちから中学受験に関心が高い親御さんが増え、講演会やセミナーの最後に行われる質問タイムの際に、「この先、中学受験をするため、幼児期の今、やっておいた方がよい事は何でしょうか？」という質問に対し、
小川先生の回答は・・・
「そういう質問をされる時は、恐らく『〇〇の勉強をしておくといいですよ』と言った具体的な答えを求めていると思いますが、私は中学受験に関わらず、頭のいい子に育てたいなら、

『幼児期にたくさんの熱中体験をさせてあげてほしい』

と伝えています。」それは『熱中力』だそうです。

「中学受験の相談で最も多いのが、高学年になってから成績が伸びなくなったという悩みです。一概には言えませんが、そういうお子さんの多くは、幼児期から早期教育を始め、習い事にたくさん通い、忙しく頑張ってきた子どもたちです。そういう子は、塾の授業で習った事は理解できるのに、少し内容が違った問題が出ると、途端に思考能力がストップしてしまい、模試などで思うような結果が出ません。」

「一方、低学年までのびのびと過ごしてきた子は、新 4 年生で入塾してきたときは、授業に追いつくのもやっとでしたが、学年が上がっていくうちにじわりじわりと成績が伸びていくケースが多いのです。」
「その違いは何だろう？と考えた結果、発見したキーワードが『熱中力』でした。小さい時に、どれだけ熱中体験をしてきたか。実はそれが頭のいい子を育てる最大の条件だったのです。」
とおっしゃっています。

子どもの発達（脳や体や心の成長）にとって必要不可欠な「遊び」の中で、たくさん熱中体験をしてほしいですね。

よくかむための言葉かけ

「モグモグ、カミカミ」と言っても、どうするのかがわからない子どもには、子ども自身の手で奥歯を触らせて「ここでカミカミするよ」と伝え、「かんだらどんな音がするかな？　どう、聞こえたかな？」「かんだらどんな味がしてきた？」などと、自分がしっかりかむことで感じる感覚を、言葉にできるように働きかけます。食べ物のかみごたえを楽しみながら、ゆっくりと味わって食べましょう。

脳のエネルギーの源は毎食欠かせない炭水化物

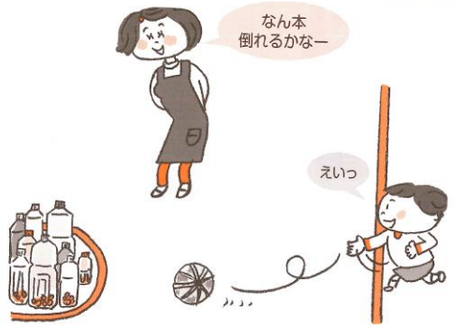
新陳代謝が盛んな幼児期。元気に動き回ったり、脳を活性化させたりするためには、炭水化物が欠かせません。特に、脳のエネルギー源となるのは、炭水化物のなかの「糖質」だけです。朝食を食べると、頭がよく働くようになる、というのも納得ですね。三大栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質）のなかでも、必要とされる摂取量が最も多く、吸収スピードも速いため、食事の要となります。ごはん、パン、麺などの主食を毎食欠かさずしっかりとることが大切です。

どんぐりころころボーリング

準備する物

遊び方

1，どんぐりボトルを 10 本程度立てます。ボトルから3～5m くらい離れた所に線を引きます。



2，引いた線の手前に立ち、新聞紙のボールを転がして、どんぐりボトルを倒します。

お子様とお散歩に出かけた時に、秋の自然移り変わりを感じながら、どんぐりや松ぼっくりなど集めて、一緒に作ってすてきな時間を過ごしてみてはいかがでしょうか？

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。
TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています